

Rotary



白河西ロータリークラブ

SHIRAKAWA WEST ROTARY CLUB

創立 1986 年

2019～2020年度クラブ目標

『共に手をつなごう
ロータリーのもとで』

会長 中目 公英
幹事 兼子 英聡



ロータリーは
世界をつなぐ

2019-20年度国際ロータリーテーマ

第1622回例会

令和2年3月5日 (12:30～13:30)

○ソング

- 国歌 (君が代)
- 奉仕の理想

○スマイルBOX

- 中目公英会長 (産業サポート白河の林和俊副所長さん、本日は卓話をありがとうございました。会員の皆様、引き続き新型コロナウイルス感染症の予防には充分にご注意下さい。)
- 永野文雄会員 (ゲストの林和俊産業サポート副所長様、卓話ありがとうございます。)
- 佐藤幸彦会員 (気持ちは30才代ですが、無事還暦の年をすごせました。次は、古希を目指します。)
- 矢田部錦四郎会員 (ご無沙汰しておりました。自分の誕生日からまた出席しますので宜しくお願いします。)
- 櫻岡敏之会員 (誕生日のお祝い、ありがとうございます。これからもがんばります。)
- 山田顕一郎会員 (とりあえずスマイルです。最近手をよく洗うので手が荒れぎみです。心まで荒れないようにしたいと思います。)

▶第1622回例会出席状況 (R2年3月5日)

Ⓐ 出席免除を受けていない正会員数	44名
Ⓑ 出席免除の適用正会員数	14名
Ⓓ 全正会員数	58名
Ⓒ ①の出席者数	22名
Ⓔ ①のメイクアップ者数	0名
Ⓕ ②の出席者数	8名
Ⓖ = ③ + ④ + ⑤ (メイクアップ補填後の出席会員数)	30名
Ⓗ = ⑥ - (⑦ - ⑧)	52
Ⓘ = ⑥ / ⑨ × 100 (例会出席率)	57.69%



月第一例会の国歌斉唱

▶例会日: 第1・第3木曜日 (12:30) その他の木曜日 (18:30～19:30)

▶例会場: 白河市新白河駅前 東京第一ホテル新白河

▶事務局: 〒961-0957 福島県白河市道場小路96-5 (白河商工会議所内) ☎23-3101 FAX22-1300

本日のプログラム

■会長の時間



中目公英会長

皆さん、こんにちは。3月第1週目の例会に、新型コロナウイルス感染症の社会不安が蔓延してる中、ご参加をいただきまして本当にありがとうございます。先週もお話をいたしました、確認のためにもう一度申し上げます。2530地区の芳賀ガバナー、ならびに2530地区の危機管理委員会の平井パストガバナーからの一応の指針として、当該クラブの所在地域内並びにそれに隣接する地域内で感染者が発生した場合には、例会を中止にしてください、それまでは例会を開いて下さいという一応の目安が出ております。白河、西郷、それを取り巻く市町村等々でまだ感染者が出ていないものですから、今のところは趣旨に則って例会を開催させていただきたいと思っております。ただ、来週の理事会で理事の皆さん方から休会したほうがいいという方が多数であれば、その時には休会になるかもしれませんがそれまでは例会を続けたいと思っております。ただ、東日本大震災後の福島第一原子力発電所の事故による放射能の流出の場合でも、いくら科学的にこの地域は安全なんだとお話をしても、人間の不安の度合いはその人その人の千差万別ですから、鹿児島まで沖縄まで逃げて行ってしまう人だっていて、帰ってこない人が今でもいるくらいですから、例会に出席してもらいたいとは思いますが、皆さん方の不安感を変えることはできませんので、ご不安の場合にはどうぞご自宅で慎んで生活をしていただければと思います。しかもありがたいことに、メーキャップが今までは前後2週間でないとダメだったのですが、今は年度内であればメーキャップは可能ですから、ここ1か月間くらい家の中で慎んで生活していても、4月5月6月の3か月間でいろんなクラブにメーキャップしていただければ、年間の100パーセント出席率は確保できますので、そんなにご不安にならずにどうぞご自宅で安静にしていいただければと思っております。一応そのような指針のもと例会は開催させてもらいたいと思っておりますのでご理解をいただければと思っております。さて、本日のお客様をご紹介します。 「一般社団法人産業サポート白河」の副所長さんであります林和俊さんです。今日はプログラムの中で「産業サポート白河」について、いろいろとお話をさせていただくことになっております。どうぞひとつよろしくお願いをいたします。それから、皆さん方にご報告をしないといけないことが2~3ありますのでお話をいたします。吉野年度、我がクラブは米山奨学生を受け入れると前にお伝えいたしました。2530地区の担当委員会から西ロータリークラブの受け入れる方の名前がはっきりして参りました。ミャンマー出身の21歳の女性であります。お名前がチョウナンラトウンさんといいます。その方は国際情報科学自動車学校の大学に通って自動車の整備を勉強なさっている方だということでございます。担当カウンセラーになります阿部克弘さんはじめとして、次年度の

皆さん方はこのチョウナンラトウンさんを快く歓迎してもらえるように、私の年度の間のうちから準備を進めてもらえればと思います。それから、もう一つ、幹事報告の中でお話をして皆さんに回覧になりますが、この間バギオ基金のことについて齊藤実バギオ基金副会長さんから卓話をいただきましたが、その模様がバギオ便りの中の一番のトップに我がクラブの写真と共に載っております。写真に写っている方、興味がある方は幹事報告の資料の中から一部受け取っていただければと思っております。さて最後に、今週は春の始めのいろいろな季節の節目になる日が続いております。昨日3月4日は、初午でありました。関東とか関西は新暦の初午でおまつりをする所が多いのですが、この白河地方は今でも旧暦でやっている所が多ございます。昨日の3月4日が初午で、稲荷神社の神様のお祝いの日というか例祭であります。この初午の日を境として田起こしをしたり苗代を作り始めたりという今年の農作業を開始するという節目の日になっております。さらに今日は3月5日は啓蟄であります。土の中で冬眠をしていた虫、蛙、蛇などが暖かさを感じて、によきによきと土の中から出てくるというふうな日取りであります。このような日取りでありますから、本来であれば暖かな野外でいろいろなことをしたいのかもしれませんが、今は新型コロナウイルス感染症予防ですから、やりたい気持ちは少しぐっと抑えられて家の中で慎んでいただければと思います。小さいお子さん方がいる会員の皆さん方は大変かと思いますが、一応政府はこの2週間が感染症のピークを迎えるから、この2週間は十分注意をなささいと言ってるわけですから、3月の下旬まで少し慎んでいればいいんじゃないかとは今のところは思っていますが、クラスターとかいう集団感染が広まってしまうと大変ですので、少し推移を見つつ十分慎んだ生活をしていただければと思います。以上で会長の時間と代えさせていただきます。今日もよろしくどうぞお願いをいたします。

■幹事報告

兼子聡幹事



○ガバナー事務所：米山記念奨学生の世話クラブ決定とカウンセラーのお引き受けについてのお願い

○県南分区ガバナー補佐：第4回会長幹事会の延期について

○国際ロータリー第2530地区：感染拡大防止による第46回ローターアクト年次大会開催中止のお知らせ

○国際ロータリー日本事務局：出版物販売終了のお知らせ、水と衛生月間リソースのご案内

○比国育英会バギオ基金：バギオだより配布のお願い

○白河市倫理法人会：令和2年倫理経営講演会ご招待について

■委員会報告

○親睦委員会

須藤正樹委員長

・結婚記念日

片倉義文会員、佐川京子会員、松永紀男会員、三瓶徹会員、藤田龍文会員

・誕生日

矢田部錦四郎会員、佐藤幸彦会員、佐川京子会員
三瓶徹会員、櫻岡敏之会員



○雑誌広報委員会

渡部則也副委員長



皆さん、こんにちは。まず、雑誌広報委員会から「ロータリーの友」見どころの紹介をさせていただきます。まず、縦組みのほうになります。4ページ「自然災害と縮災対策」ということで、最近非常に水害とか自然災害が以前に比べてかなり多くなって、しかも深刻で広範囲に渡って起こるということ、なかなか災害そのものを防止しようと思っても難しいので、いかに災害が起きた時にその影響を少なくするか、そういった対策。あるいは、復興にむけての対策、こういったものを日頃からよく考えておく必要があるよというようなことが書いてあります。あとは地域を活性化しようなんていう話題もその次の話題としては載っているようです。あと、縦組みの19ページ「卓話の泉」というところでもいろいろ書いてありますけども、「栄養の話」ということで、最近小腸、腸の中の腸内細菌が非常に免疫力とか、そういったものを保つのに非常に関わっているいろんな病気の引き金になったりするというところで、腸内細菌層をいかに正常なバランスに保つかというところが非常に大切なんですよということ。栄養を取ってバランスの良い食生活を注意したほうがいいですよというような話が述べられております。横組みのほうにいきたいと思います。今回、横組みのほうは水に関する話題が多いです。今、水が非常に世界的には衛生的な水が手に入れられる状況があるんですけども、アフリカをはじめ一部の地域では未だに安全な飲み水が確保できない。あるいは、トイレすらもちゃんと整備されていないというような状況があって、いかにこういったところで支援をしていくか。設備を作ったけどもそれが壊れてしまうと維持が出来なくなってしまうということで、せっかく支援をして設備を作っても、それをいかに今度現地の方々自分たちで維持して修理してというようなことが出来るようにしないと、結局作ったインフラが全部無駄になってしまうということで、そのあたりも含めた長期に渡る支援とか指導、そういったものがなくなるだろうというような話が出ております。あとは、その水に関するロータリーの各地の取り組みとか、そういったことが紹介されております。24ページ、ポリオ根絶、

これはロータリーの大きなテーマの一つなんですけれども、未だにちょっと根絶しきれていない所があって、特にアフガニスタンとかパキスタンは野生のポリオ株がまだ出てるということで、こういった所をいかに撲滅していくかと。ワクチンも口からとるワクチンと注射でやるワクチンが主流になってきてるんですけども、このワクチンが非常に高価だということと、医師じゃないとそのワクチンを打てないというような足かせがありまして、なかなかその地域にそういった注射のワクチンを届けることが難しいということも書かれております。あとはいろいろな話題がありますのでご一読いただければと思います。

あとは先程、新型コロナウイルスの話をしろということだったのですが、実はコロナウイルスというのはもともと風邪のウイルスなんですね。普通、我々が風邪としてウイルス感染症でうつる病気はコロナウイルスをはじめいろんなウイルスが原因ですけども、その中でちょっと毒性化が非常に高くなってしまったというか、かかってしまうと非常に重症化するウイルスに変異してしまって、中国から世界的に広まってということで問題になっております。それで、この一番厄介なところは免疫を持ってる人がいないんですよ。ですから、そのウイルスにやられてしまうとほとんどの人が感染する危険があるんです。ただ、発症するかどうかはその方の免疫力にかかっているんで、若くて体力のある方だと全く発症しない人もいるでしょうし、あとは軽い風邪の症状で終わってしまう方もいます。ただ基礎疾患、例えば重症の糖尿病だったり、抗がん剤を飲んでるような病気を抱えてたり、あるいはお年寄りの方で免疫力の弱っている方とか、そういった方が感染しますと非常に厄介な肺炎を起こして、そこに加えて治療薬がないんですね。普通の抗生物質を点滴しても飲んででもコロナウイルスを撲滅することはできません。新型インフルエンザが何年前にすごい流行しましたけれども、あの時は従来のインフルエンザの薬が効いてたんですよ。ですから、比較的治療としてはうまくいくことが多かったんですが、今は特効薬がない状態でエイズのお薬とか喘息の薬とか、あるいはインフルエンザの新しい薬とかそういったものが試しに使われているような状況で、まだ安全に確実にという薬があるわけではありません。あともう一つは、ワクチンもまだありませんので一回蔓延してしまうとやっぱり全国的な、いわゆるパンデミックというんですけども、そういう感染になってしまうという危険が非常に高く言われています。どうやってこれを抑えるのかというのは、ちょっと私自身もわかりませんが、国がやっているのは取りあえず人と人の接触を最小限にして、感染のリスクの高いような行為をできるだけ控えてくださいということで、学校までちょっとクローズにしたということになるんですけども、実際には学校だけではなくて本当だったら会社とかそういったところも当然感染の危険はあるわけではありますし、人の流れ、物流を完全にシャットアウトすることは不可能ですので、実際福島県

は感染者一人もいないというふうには言われていますけれども、検査してたまたま出た人がいないというだけで、実際には普通の風邪として病院にかかっている人の中にも、もしかしたらいる可能性も否定はできないですよ。政府が示した重症化という指標みたいな、熱が4日間以上あって、咳があって、呼吸が上がってなんていうことだけ絞って検査をしますので、なかなか本当の感染者を把握しきれていないというのが現状です。今、国を挙げてこの2週間で何とかその拡大を防ごうということでやっていますけれども、実はこれで完全に封じ込められるかどうかはかなり困難だというふうに言っている先生もおられます。というのは、急にこう拡大してしまうとまず医療が追いつかないんですよ。治療に対応できなくなってしまふということがあるので、できるだけ時間を稼いでその山を緩やかに後ろに持っていく。その間に治療薬の開発とワクチンの開発ということも同時に進めて行って、万が一後で大きな山が来てしまった時にも対処できるようにということも考えているようです。ですから、2週間で封じ込めて2週間後になればもう安全なのかといわれると、今の時点ではクエスチョンでちょっと何とも言えない状況なので、みんなで注意しながら経過を見て、国が一応主導して対策を取ってはおりますけれども、個人的にできるような事を少しずつやっていただくということでいくしかないのかなと思います。あとは深刻なのはマスクが世の中にほとんど出回ってないということで、実は医療機関も今ストックが多分どの医療機関も1か月くらいで入荷がこの1か月ゼロですので、ほとんどの病院が今、使い捨てにしているんですよ、マスクを。本当は危険なことなんですけど、もう3日くらい同じマスクをしています。私も同じマスクをしています。そうしないともうマスクが足りなくなってしまうと、例えば3か月後に本当に患者さんが増えてしまった時に無防備になってしまうので、その辺はちょっと国も何とかして全国民にマスクが行き渡るように、本来なら国が買い上げてちゃんと家庭に配布するというようなことをやらないと、一部の買える人だけが買ってしまうんですね。本当に必要な所に行き渡らないというような状況が続くのがちょっと一番心配だなと思います。ちょっと取り留めない話になって申し訳ありませんけれども、まだ確定的な対策というのがきちんとないのが現状で、少しずつみんなで出来ることでその感染の拡大を予防できればというふうに皆考えているところであります。医師会のほうにも国のほうからいろんなファックスが届くんですけども、ころころ変わって、例えばウイルスの検査が保険適応になると言ってますけれども、実際におそらく出来るのは感染症指定病院に限られますので、例えば市中のクリニックのほうに来て心配だから検査してくれと言われても、多分すぐにはできないような状況がちょっとまだ続くかなと思います。

■本日のプログラム

○プログラム委員会

櫻岡敏之委員長

皆さん、こんにちは。先程、会長のほうから紹介がありましたので、もう時間もだいぶ少なくなっているものですから、早速、林副所長さんから始めていただきたいと思えます。始める前にあたって林副所長さんのほうから、先週東京のほうの展示会に行ったということで、コロナウイルス対策ということでマスクを着用したままでお話をさせていただきたいということがありましたので、ご理解ご了承の程をお願いしたいと思います。それでは、よろしくお願いたします。

○ゲスト卓話

一般社団法人産業サポート白河

副所長 林和俊様



皆さん、こんにちは。「産業サポート白河」の林といいます。今日は貴重なお時間いただきましてありがとうございます。お時間のほう限られますので、早速産業サポートのほうのご紹介をさせていただきたいと思います。よろしくお願いたします。まず初めになんです、「産業サポート白河」こちらが誕生した経緯をちょっと皆さんにご紹介したいと思ひまして、経緯につきましてまず平成19年7月、現白河市長鈴木和夫氏が立候補する際、産業振興を図るため産業センターの設立を選挙の公約としました。市長は前職の県職員時代、相双振興局長であった時に南相馬にあります同じ産業支援機関の「夢サポート南相馬」そちらの起ち上げのほうに携わっておりまして、白河のほうの地域でもそういった産業支援機関が必要だということで選挙公約として実行されました。選挙に当選しまして、産業振興策の推進ということでその一環として白河産業支援センターの起ち上げの準備が始まっております。産業振興の実施する上で鈴木市長の考え方なんです、働いている方は隣の町や村にも勤務しておりますし、反対に町村の方が白河市にも勤務している方が多くいるということで、振興政策としても行政区単位、白河だけでやったのでは効果がないと。この行政単位を越えた複合の組み合わせに実施しなければ効果が出ないという考えのもとに産業振興の立案をしております。こうした考えを踏まえまして、白河市、西白河、東白川、県南地方ですね。白河地域と呼んでおりますが、広域的に活動するということになりました。活動していく上での人員体制ということで、これ今現体制として11名で活動させてもらっております。実際、技術面の相談ですとか、人材育成、ローン、あと金融機関のほうからも二人派遣いただけてまして、その辺を充実させながら相談対応をしていこうというような形で人員体制はなっております。県南地方の特性なんです、平成27年10月の国勢調査のなんですけども、県南地方ですと大体14万4千人人口がおりまして、生産年齢人口は8万3千人というような人データになっております。産業分類別にいいますと、事業者数が一番多いのが卸売小売業です。次に、宿泊業、飲食業、サービス業。三番に製造業。四番目に建設業という形となっているのが白河地域

の特性になっております。産業別に従業者数ですが、こちらは断トツで製造業が一番、倍くらいの数字になっているデータが出ております。製造業における県内の町とか比べた場合なんです、今回のケースでいくと我々が活動している地域の白河の県南のほうとほかの市と比較してはありますが、いわき市さんに次いで県内でも2位くらいに維持しているというようなデータが出ております。このデータから見ますと、県南地方はものづくりの製造業が盛んな地域であるとわかったと思います。そんな地域の経済を支えておりますものづくりの支援をしようということで、「産業サポート白河」は立ち上がりに向けて動き出しました。そんな中、地域が抱えていた問題としまして、もちろん企業誘致こちら大事なんです、地元の企業さん、こちらのほうの振興を推進するのがとても大事だという問題もありました。また、地元企業さんの抱えた悩みとしまして、こちら平成20年2月起ち上げ前にアンケート取ったのですが、取引の拡大を図りたいとか、キーマンになる人材を確保したい、人材のスキルアップを図りたい、大学や研究機関と連携してみたいというような悩みをアンケート調査からわかったと思います。これらの目的を解消するというので、平成20年10月に任意団体として「産業サポート白河」が設立しております。翌年の21年4月に一般社団法人指定を受けております。こうして団体としまして、市内の商工会議所さんとか、金融機関の支店のある金融機関ですね、あと行政の9市町村、その他の地元の企業さんなんかも入っている構成で28団体で構成されております。うちのほう指定管理制度ということで、市内の2か所のうちの施設管理させてもらってまして、図書館の中に入っています産業支援センター、こちらですね。経営全般に関する情報収集なんかもありとか、あと新たにビジネスを起す起業支援とかという形のほうもやらせていただいております。また、旧職業訓練センターですね。こちらのほう今名称、人材育成センターというんですが、こちらのほうも施設の管理させていただいております、中小製造業の方向けの人材育成事業ですとか、そういった研修用の施設の提供だったり、そういったものに活用させていただいております。「産業サポート白河」の重要な取り組みということで、一番大事にしているのが地元企業の御用聞きということで、ものづくり企業の製造における問題を解決するため日常的に、うちの産業支援センターを中心に活動させていただいており

ます。そんな御用聞きをベースに基本的に取引斡旋ですとか、人材育成事業、情報発信事業、起業家支援事業、関係者との連携、人材確保事業というような形で取り組ませていただいております。続きまして、令和元年度の主なという事業やってるのかなというようご紹介になりますが、1月末現在くらいの資料なので、若干1か月くらい数字的にも古いものになってしまうんですけども、企業訪問につきましては延べになりますが同じ企業さんも何回も行ってるんですけど、今のところ1600件ということで企業訪問を毎日のようにやらせていただいております。そんな中、取引斡旋ということで相談件数としては57件。それによってうまくいったケースが46件。こちらについては、成功しておりますしかなり企業さんと顔なじみになった部分もありまして、平成28年度ですと28件と半分くらいの数字だったんですが、昨年度あたりからいろんな案件とか相談員に直接電話がかかってきて、こういう加工出来るとこないかとか、そういったご相談もかなり増えておりまして、相談の件数も増えております。これも10年かかっている歩いてきた成果なのかなと感じているところでございます。人材育成事業になりますが、ちょっとうちのほうで持っております機材なんかを使用して自動シーケンスの講習ですとかやっております。その機械の数が決まっているので、3か月に10名が限界ですが、これ毎年のようにやらせていただいております。また、機材を使用しない講習会としまして、機械製図の研修ですとか、品質管理の研修なんかもやっております、比較的定番化しているものについては皆さん予定を組んでいただいてまして参加率もかなり良くなっております。あと、製造業に関する新入社員向けの研修と中堅社員向けの研修ということで、3年目になります新人の研修については年8回、技能研修については全5回の形でやらせていただきまして、3年目の今年は参加人数のほうもかなり良かったようになっております。次に小中学生向けの事業ということで、棚倉町さんでやっておりますチャレキッズ事業というのがありまして、そこに「産業サポート白河」のブース設置させてもらいました。そこで白河地域の企業の映像を流したいと思って、あとは私の同級生に福島高専の教授がおりましてちょっと協力してもらいまして、子供たちにキーホルダー作りなんていうのも体験してもらいまして、そのものづくりの楽しさを子供たちに体験してもらったところです。こちらの空いてる時間に駒回しなんかもやってもらいまして、意外とこちらのほうも大盛況で子供たち楽しく過ごしたのかなと思っております。また、同じ小中学生の事業なんです、[まるごと白河]という白河でやってるイベントのほうに産業サポート白河ブースを設置しております、朝日ラバーさんに出展いただいてラケット造りとか、MGCさんにホッカイロづくりですとか、あとこちら西郷商工会さんなんですけど、駒作りの体験なんかもやってみました。あと、2020年からプログラミング教室というふうな必修されるという話もありまして、数年前からロボットプログラミング教室ということで、レゴなんですけど自分で組み立てまして実際プログラミングして実際に走らせてみよう、動かしてみる



というような形でレゴのキッドを使ったプログラミング講習もやっております。こちら結構機材が10個しかないんですけど、毎回定員いっぱいなるくらい好評いただいております。なかなか回数を増やせないということあるんですが、こちら好評なので引き続き何とか回数を増やしてやっていければと考えております。また、5Sの推進ということもやっております。「しらかわ5Sの関」という組織も起ち上げておまして、こちらのほうは会員間の相互協力による5Sの取り組みをやっております。こちらに関しては現在18社で活動しておりますが、基本的に「産業サポート白河」は県南にあるものづくり製造業である企業さんを支援するという形なんですけど、こちらは5Sの関については会員制という形で事務局を担っている形なので、こちらで活動している形になっております。今年度は事業承継の対策にはということで、はくしん若手経営者の会の協力のもと、事業承継のセミナーなんかも開催させていただいております。情報発信としまして、ウェブやSNSですね、メルマガなんかちょっと使って白河地域の企業をご紹介させていただいてるところでございます。あとデジタルサイネージを活用した情報発信ということで、ここは第一ホテルさんの別館のロビーに一般のほかの企業さんも物を置いてあるんですが、我々うちの事業で制作した映像がありまして、そちらのほうをちょっと流しておるので、これも今年ホテルさんと二葉企画さんとコラボしてやったんですが、また4月以降も継続して違った形でいろんな発信して製造業の企業さんをご紹介していければと今考えておるところでございます。こちら第一ホテルさんを活用させてもらっておこなっている事業なんですけど、白河企業展示交流会ということで、こちらについては高校生、管内の卒業予定の高校生ですね。こちらのほうにお越しただいて、一日目については65社の企業さんに出展いただきまして、県南の企業さんを知ってもらおうということでやっている事業でございます。「サクラテック」さんでもお越しただいております。ありがとうございます。今年、翌日に大学生向けということでこちら初めて開催したんですけど、翌日ホール半分にしたので36社で開催させていただきました。こちら大学生ですとか、テクノアカデミー郡山というのがあるんですけど、こちらの学生さんとか福島高専の学生とかに来ていただきまして、県南のほうの企業さんも知ってもらおうということでやっております。高校生と違うのは高校生は学校にお願いして出展してもらってんですけど、学生はなかなかその辺が難しくて大学生については、ちょっとランチ交流みたいなのをちょっと入れたりして、ちょっとアクセント加えてやらせていただきました。意外とランチ交流を挟んだ後に来てくれた学生もいたということで、ランチ交流は好評を得ました。起業家支援ということで我々女性向けのセミナーもやっております。プチ起業セミナーということで4回シリーズで毎年開催しております。こんなプチ起業セミナーの昨年の参加者が実際起業しまして、着物メイクMANAさんという方がおります。その方に先生として、ネクタイ作り教室なんていうのを父の日に合わせて企画して、会津木綿を使ったネクタイ

の制作を参加者にやっていただきました。また、実際その起業者が起業したばかりですと、いろいろな行き詰まりとか悩みとかいうのが多くて、そういったものをいろんな参加者全員でブラッシュアップして問題解決を図っていきましょうというような頭脳交換会というのをやってみました。こちらについては今年2回開催しております、マイタウンのほうでやっています。あと4号線にある「大政興業」の中にある「パレット」というのがあるんですが、そちらのほうで30名という形でやらせていただきました。お時間ないんで駆け足になりますが、産学官等連携事業ということで東北大の堀切川教授にいつもお世話になりながら、大学の御用聞き企業訪問させていただいております。あと人材確保の事業ということで、インターンシップのプログラムを作るセミナーですとか、実際学生に対するしっかりとしたプレゼンができるようになるプレゼンテーションのトレーニングセミナーですね。人材確保の事業として、ハローワークさんと協力しまして、白河地域の合同就職企業説明会なんかも開催しております。今日、お配りしておりますが白河地域の働く場所ですね、こちら実際働いてる方のリアリティを追求したような企業情報誌も制作しておりますので、今日あとでご覧いただければと思います。お時間ちょっと駆け足で申し訳なかったんですが、ありがとうございました。



○中目公英会長

林副所長さん、今日は本当にありがとうございました。昨日は高校入試でした。受験生を抱えるの会員の皆さん、一番不安な時期とは思いますが必ず桜は咲くと思いますので、ひとつどうぞ心を穏やかにお待ちをいただければと思います。それから、渡部則也先生のお嬢さんが県立医大に合格したという新聞報道がありました。お祝いを言うのが遅くなりましたが、本当におめでとうございました。会員の皆さん方のお子さん方が晴れて進むべきところにきちんと進んでもらえるように願っております。私のところは一人親方ですから私が新型コロナウイルスに感染すれば私の家族だけ避難すれば大丈夫ですけども、従業員が多い企業さんでは万が一の場合の危機管理というのを今からお考えになっておいていただければと思っております。じゃあ、来週も皆さん元気で会いしましょう。例会ありがとうございました。